

塩の道でSDGsを考える

10月31日、土佐塩の道保存会主催で、持続可能な山の暮らしを考えるSDGs勉強会を実施しました。

当日は約20人の参加者が塩の道ウォークと、当時の人が活用していたと思われる味噌玉づくりや、火打石で火起こし体験などをして先人の知恵に目を向けました。昔の不便さと、豊かな山の自然の中で未来を考える時間となりました。



山フェスin猪野々・溪鬼荘



11月3日、『山フェスin猪野々・溪鬼荘』が吉井勇記念館で開催されました。(一社)香美市観光協会と県立山田高等学校の生徒が企画し、当日は市内外から約100名が訪れました。

当日は、山高生によるよさこい演舞、マルシェなど、さまざまな催しが行われました。『国登録有形文化財溪鬼荘』は昭和レトロ風のメイドカフェに変身し、ゆったりとした居心地の良い空間が広がっていました。

大宮小学校5年生が稲刈り!



10月15日、大宮小学校5年生39名が、地元農家で構成される本田集落協定の協力のもと稲刈りの体験学習を行いました。

この学習は、本田集落協定が管理する農地を借りた『大宮小学児童農園』の水田で、もち米の栽培から収穫までを体験することにより、農業の役割とその大切さを学び、食べ物に対する感謝の心を養うことを目的に行われている行事です。児童たちは本年6月から代掻き・田植えを行ってきました。当日は、慣れない鎌の扱いに苦戦しながらも、声を上げて楽しみながら稲刈り、コンバインによる脱穀を体験しました。収穫したもち米の半分は香北学校給食センターに提供し、学校給食として活用され、残る半分は、大宮小の児童が自分たちでその活用方法を考えることになっています。

西日本豪雨の教訓



10月28日、中央公民館で、香美市未来の森づくり委員会主催の講演会『岡山・真備町からの報告 被災地で何が起きたか! 災害復旧と大工職の役割! ~平成30年西日本豪雨の教訓~』が開催されました。

平成30年7月の西日本豪雨被災地の岡山県真備町で技術系ボランティアとして参加した北山紀明さんを講師に、災害に備えた行政・NPO・ボランティア・住民組織との連携の重要性や被災時の被災家屋の取り扱い等について学びました。また、災害時には、伝統的な手加工での組み立てができる地元の大工さんが、重要な役割を担うだろうと話されていました。

おもてなし一斉清掃

10月6日、龍河洞やアンパンマンミュージアムなどの市内の観光地周辺を地元の方と近隣の事業者が、美しい環境で観光客をお迎えするために、秋のおもてなし一斉清掃を行いました。

総勢110名の方に参加していただき、コロナ対策でマスク・手袋着用で清掃活動を行いました。

12月4日から販売される香美市観光プレミアムチケットを買って、香美市の観光施設を応援してみませんか。(広報10月号12ページ掲載)



四電が防犯灯7基を寄贈

10月21日、四国電力株式会社高知支店から香美市に、防犯灯7基を寄贈する目録が手渡されました。

同社は、毎年社会貢献を目的とした事業『よんでんグループふれあい月間』の一環で、自治体へ防犯灯の寄贈を行っています。香美市に対しては平成4年から昨年までに、466基の防犯灯を寄贈していただいています。本年、新たに寄贈される7基の防犯灯は、香美市内の各地区へそれぞれ設置されます。

香美市森林環境税活用事業

かみんぐBABY木のギフト

ファーストスプーンづくりを開催

小さな頃から木や森と関わることで、森の大切さを感じてもらいたいと、『木育』を目的に、お子さんが最初に口に作るファーストスプーンを香美市産の木で作るイベントを開催しました。会場には託児スペースがあり、日頃子育てに励むお母さんやお父さんも、育児から離れ我が子のために一生懸命スプーンを作っていました。

桜やひのき、カエデ、びわ、ほおの木等、たくさんの木の中から好きな木を選び、紙ヤスリを使ってザラザラした感触の粗い木のスプーンを磨きます。ザラザラしていたスプーンが、磨けば磨くほど段々とツルツルとした気持ち良い感触になっていきます。仕上げに口に入れても安全なコメ油を擦りこみ拭きあげると、世界に一つのファーストスプーンが出来上がります。油を塗ると磨いていた時とは違った色合いになり、ぼんやりしていた木目もはっきり浮き上がり風合いが変わるため、沢山の方が驚いていました。出来上がったスプーンを、早速「はなすものか!」と言わんばかりに握るお子さんの姿もありました。日々の子育ての悩みなど様々な話をしながら、和気あいあいとした温かい雰囲気イベントとなりました。

【問い合わせ先】農林課林政班 ☎52-9283

